

若年認知症ぐんま家族会

つながる

つなげる

あなたは
独りじゃ
ありません

若年認知症ご本人と家族が孤立しないために
ご入会案内

2006年6月28日設立



設立総会（2006年6月28日）
群馬県こころの健康センター



創立10周年記念事業



創立20周年定期総会
（2025年5月28日）
前橋市総合福祉会館

創立20周年総会



右側は創立に多大なご尽力をいただいた
宮永和夫先生
（設立当時、群馬県こころの健康センター長
現、ゆきぐに大和病院医師）

若年認知症ぐんま家族会とは

若年認知症ぐんま家族会は、群馬県健康福祉部並びに群馬県こころの健康センターの深いご理解とご支援により、2006年（平成18年）6月28日に設立いたしました。

現在では、厚生労働省はじめ行政やメディアの啓発と報道により「認知症」という言葉が社会に浸透しつつありますが、働き盛りの年齢で発症する「若年性認知症」（64歳以下で発症）については、残念ながら十分な社会的認識は得られていないと言っても過言ではありません。

2012年に行われた群馬県の若年認知症実態調査において、「若年性認知症」と診断された県民は329人でした。高齢者の認知症（2020年には要介護認定数約10万5千人と推計）と比べると、決して多い数ではありませんが、「若年」であるが故に、働き続けることの困難性、家族の介護重圧、医療費・介護費の家計逼迫、受け入れ施設が少ない、子どもの教育問題など、日常生活が一変し、筆舌に尽くし難い生活を余儀なくされています。

私ども家族会の存在基盤は、若年性認知症に冒されてしまった本人と家族が社会から孤立することを防ぎ、介護で燃え尽きることをないように「つながる」「つなげる」「あなたは独りじゃありません」を合言葉にして日常活動を行っています。更に、県民が若年性認知症の実態を理解していただくための啓発活動も併せて実施しています。

幸いにも、若年認知症ぐんま家族会は、全国に誇れる専門職のスタッフと支援者が、常に共助の精神で活動していただいています。

今や、誰が、いつ認知症になるかわからない状況にあります。若年性認知症も例外ではありません。万が一、「若年性認知症」と思われたら、早期に私ども家族会の門をたたいてください。また、行政はじめ地域包括支援センターや医療・介護関係者の皆様におかれては「若年認知症ぐんま家族会」をご紹介くだされば幸甚でございます。

「若年性認知症」についてのご理解とご支援を

「認知症」という言葉から何を想像しますか？

「認知症になっても地域で暮らせるまちづくり」とは？

認知症と一口に言いますが、認知症の種類には、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など、脳の変性に伴って、認知機能が低下し、それぞれの原因が異なっているため、症状や特徴にも違いがあります。

しかも、認知症イコール高齢者という受け止め方が一般的ですが、64歳以下で発症した場合は「若年性認知症」と定義されています。

若年性であることから、この年代は働き盛りであり、子育て世代でもあります。故に、認知症を発症されてしまうと、症状の進行と併せて、働き続けることの困難性に端を発して、中途退職、家計の逼迫、子どもの教育環境の変化、家族の介護負担、医療費・介護費用の捻出など、家庭におよぼす影響は計り知れないものがあります。

一方、現代においても認知症は恥ずかしい病気であるという意識が存在していると同時に社会的な無理解から、公表すると地域や職場、学校での生活に息苦しさを感じるという理由で、家族が抱え込んで介護に専念し、やがて共倒れと言う社会的損失を防がなくてはなりません。

厚生労働省は、2009年3月の実態調査で、若年性認知症者数は37,800人との推計を発表しています。群馬県が2012年に調査した結果は、329人としています。

高齢者の認知症者数と比較すると、極めて少ない数ではありますが、若年性認知症の本人・家族の課題は、幅広く奥行きが深い事を認識していただきたいと願うばかりです。

若年性認知症を取り巻く諸課題



何かがおかしい？

本人のもの忘れ⇒家族の気づき。

時間や曜日の見当違い⇒家族の気づき。

仕事のミスが目立つ⇒職場と家族の連携。

意欲が低下する⇒家族と周囲の気づき。

◎まずは、早期に「かかりつけ医」で受診することをお勧めします。

つなぐ つなげる わたしは独りではない

お願いです：行政機関、医療機関、福祉・介護関係機関の皆様へ

若年認知症ぐんま家族会は、本人・家族の安寧な生活を希求して、介護体験交流や研修会を開催しています。家族会に加入された方からは「家族会の会員になって良かった。わたし独りではなかった」と異口同音に話されています。

若年認知症本人・家族が孤立しない、共倒れしないために、是非とも、家族会につなげて下さい。

私たちは、医療をはじめ介護に関する事や各種制度の利用、サービスなど、若年性認知症の人の視点に立ったサポートを進めることとしています。

群馬県は、先進的な取り組みを行い、群馬県若年性認知症支援コーディネーターを12病院に委託しています。

群馬県若年性認知症支援コーディネーター配置病院（2024年4月1日現在）

医療機関名	所在地	電話番号	相談窓口開設日	開設時間
上毛病院（基幹型）	前橋市下大島町596-1	027-266-1748	月～金	9:00～17:00
老年病研究所附属病院	前橋市大友町3-26-8	027-252-7811	月～金	8:30～17:00
サンピエール病院	高崎市上佐野町786-7	027-347-4477	月～土	9:00～17:00
田中病院	北群馬郡吉岡町陣馬98	0279-54-5560	月～金 祝祭日を除く	9:00～15:00
篠塚病院	藤岡市篠塚105-1	0274-20-1103	月～土	9:00～15:00
西毛病院	富岡市神農原559-1	0274-63-8120	月～土 土は12:00まで	9:00～17:00
吾妻脳神経外科循環病院	吾妻郡東吾妻町大字原町760-1	0279-68-5211	月～土	8:30～17:30
内田病院	沼田市久屋原町345-1	0278-24-5359	月～土 土は12:30まで	9:00～17:30
原病院	伊勢崎市境上武士898-1	0270-74-0633	月～金	9:00～15:00
美原記念病院	伊勢崎市太田町366	0270-20-1700	月～金	9:00～17:00
日新病院	桐生市菱町3-2069-1	0277-30-3660	月～金	9:00～17:00
つつじメンタルホスピタル	館林市小桑原町1505	0276-57-6366	月～金	9:00～17:00

若年認知症ぐんま家族会のご案内

入会のご案内（個人情報厳守しています）

- ◇認知症のご本人・家族の方
- ◇医療・介護・福祉に関わっている方
- ◇学生さんやサポーターになっていただける方

入会の手続き

事務局へご連絡くだされば加入申込書・会則を送付します。

会費 個人・賛助会員共に3,000円（年会費4月から翌年3月）です。

但し、10月以降加入の方は、1,500円です。翌年1月以降加入の方は、会費免除です。

家族会に関するお問い合わせ

◆若年認知症ぐんま家族会事務局

大沢 幸一（おおさわ こういち）

〒376-0005 桐生市三吉町2-2-14

電話 090-4843-0387（即、対応できない場合があります）

Mail jngkazokukai@outlook.jp ・ xingyidaze@gmail.com

◎記録の都合上、メールにてお願いいたします。